

農村地域における持続可能な景観まちづくりに関する研究

-(その3)写真投影法による小学生の地域認識像の把握-

A Study on the Sustainable System of Regional Landscape

-(Part 3) Grasp of local recognition of children by photography-

○加藤翔志¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 川島正嵩⁴

*Shoji Kato¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³ and Masataka Kawashima⁴

Abstract: The purpose of this study is to grasp children's local recognition and verification of the "FUKEI-EZU". In this paper, it analyzed by Photography. The result is the following; 「①A place with a meaning of community.」and「②A place which had an impressive experience.」. Painting of the place which had an impressive experience is important for the "FUKEI-EZU".

1. はじめに—本稿では前稿に引き続き、事前調査のワークショップ(以下、WS)に参加した小学生(富田地域在住)を対象とし、参加小学生個々の地元富田地域に対する風景観を捉えるため、前稿で述べた写真投影法を実施し、そこから個々の風景観とその要因を捉え、その結果を通じて地域認識を育み継承できる「風景絵図」の構築のための留意点を導出する。

2. 調査方法—小学生個々の風景観を捉えるにあたり、カメラを参加者全員に配布し、Table 1 に示すように、地元地域の好ましい景観を写真撮影をしてもらった。なお、撮影対象を正確に捉えるために、別途配布した回答用紙に撮影理由を記入してもらった。

3. 結果および考察—Table 1 の調査により 23 名 393 枚の写真が収集できた。以降では、これらから小学生の風景観に関する特徴を考察していく。

(1) 撮影人数が多かったもの—好ましい景観全 69 位のうち上位 5 位以内に「富田会館」「富田川」「八幡神社」が挙げられた(Table 2)。この 3 地点は隣接しており、地区に偏りなく上位に挙げられている。これより、この一帯は富田地域の要所として認識されているといえる。これは、遊び場としての施設整備が施されている以外にも、郷中に存在し地区のどの場所からでも眺められる地理的位置が大きく影響していると考えられる。「展望台」も同様に地区に偏りなく上位に挙げられており、過半数となる撮影人数がみられた。これは前稿で捉え

たように、「日本一」という風景に対する名付けが高い認識につながったと考えられる。

(2) 地区限定の好ましい写真—Table 3 は、地区ごと集計した好ましい景観上位 5 つを示したものである。Table 3 をみると、5 区では「吉田川経塚」が最上位であった。この場所は、経塚のほかにシダレザクラが存在するほか、御堂巡りの中継地点など地域行事で用いられている。なかでも、「吉田川経塚」を撮影した 8 割の小学生が「どんど焼き」の説明を記述しており(Table 4)、その印象的な体験が撮影人数に大きく影響を与えたと考えられる。しかしこの「どんど焼き」は、富田地域内の他の区でも同様に取り組みされているが、他の区ではこれに関する事柄は挙げられなかった。これは、他の区では「どんど焼き」を経塚のような信仰深く象徴的な地で行うのではなく、一般的な農地で行っていたため、小学生の意識に残りにくいものと考えられる。

また、6 区、8 区では「公会堂」、5、6、7 区では「富田会館」もまた上位に挙げられている。これらの施設は、ラジオ体操や子供会の勉強会・行事で使用するなど、区の集会場として頻りに利用する施設である。子供の地域認識には、こうした交流や情報交換の場などの実体験が、大きな影響を及ぼすと考えられる。

単位(人)

Table 2. Top five of the recollected local resources. (This is the original graph by authors.)

順位	撮影対象	5区	6区	7区	8区	合計
1位	富田会館	4	4	5	2	15
2位	富田川	3	3	5	2	13
2位	展望台	3	3	5	2	13
4位	東光院	0	2	4	4	10
5位	八幡神社	1	2	4	2	9

※ は撮影対象が集会場の類のものを表す

Table 3. The higher rank of the remembrance for every area. (This is the original graph by authors.)

5区(撮影者数)	6区(撮影者数)	7区(撮影者数)	8区(撮影者数)
吉田川経塚(5)	富田会館(4)	富田会館(5)	8区公会堂(5)
富田会館(4)	6区公会堂(3)	展望台(5)	東光院(4)
岩村ダム(3)	弘法堂(3)	茅葺民家(5)	
富田川(3)	富田川(3)	阿弥陀堂(5)	※ 8区の3~5位はその撮影者数が、8区の参加数の過半を下回るため除外した。
吉田川(3)	展望台(3)		
展望台(3)	姥が洞キャンプ場(3)	富田川(5)	

Table 1. Outline of a research. (This is the original graph by authors.)

写真投影法	
被験者	事前調査に参加した児童(計27名)
配布日	事前調査終了後
撮影日	2011年7月23日~8月31日
回収数	23人(5区:6人 6区:5人 7区:7人 8区:5人)
総撮影枚数	393枚
調査方法	〈使用カメラ〉 27枚撮りの使い捨てカメラ
	〈撮影内容〉 「富田・私」にとって「大切な・好きな・新しい友達が出来たら紹介したい場所/もの」の撮影
	〈撮影対象の評価〉 撮影対象をより正確に把握するために別途配布した回答用紙にコメントを記入していただいた

(3) 大人の地域認識との比較—大人の地域認識には 2009 年度に筆者らが参画した恵那市景観計画策定作業^{※1}の一環で行った「第 2 回富田地区景観まちづくりワークショップ」における宿題写真の投票結果^[1] (上位 10 点)を用いる (Table 5)。これは今回の結果と集計方法は異なるものの、子供たちの好ましい景観の上位 10 点 (Table 6) と比べてみると、Figure 1 のように共通している要素として「展望台」「吉田川経塚」「岩村ダム」「茅葺民家」が挙げられる。「展望台」「吉田川経塚」に関しては、既述した名付けや印象的経験などを通じて共有化されたと考える。また、共通要素の「岩村ダム」に関しては、小学生の撮影理由 (Table 7) に『ダムから見た景色』や『えん堤から上流をみた景色がきれい』などとされていることから、ダイナミックなダムの非日常の様相が、その場の印象を強めたと考える。「茅葺民家」については、その撮影理由から『たまた泊まりに来ている人がいる』や『ここは、草の屋根で中で泊まることできる』など、来訪者の滞在施設として認知されているが、地域の歴史や伝統資源などに関するコメントは 1 件と少ない。このことを踏まえると、「茅葺民家」の民宿化のような表立つまちづくり活動は認知される一方で、「茅葺民家」の本源的な文化的価値は継承されたい傾向にあるといえる。

4. 結論—以上より、子供達の地域認識に至るその要因として、“学校での学習内容”や集会場などの“情報交換の場”、“農村景観日本一”などのその場に対する“名付け”や“意味付け”、さらに「どんど焼き」などの“印象的な経験・体験”が捉えられた。

なかでも“印象的な経験・体験”を「風景絵図」に記述していくことは、その場のイメージを直感的に想起させる「場所ごとの生きた風景」の記述となり、疑似・追体験が期待できることから、「風景絵図」を通じた地域認識を容易にするうえで有効となる。

5. おわりに—前稿および本稿での成果は、「風景絵図」のような地域イメージの作成過程に子供を巻き込む重要性を示唆している。それは、その地域に長年住み地域のことに満遍なく認知している大人に対し、子供の認識は、行動範囲と重なって狭いものの、「富田会館」の地域の要所や「吉田川経塚」などの特異な体験により把握するものであった。このように大人と子供ではその風景観は異なるため、大人のみならず子供に対しても景観WSなどの同様な取組みを展開することは、地域認識を共有するうえでの有益なプログラムになることが認識できた。

Table 4. Remembrance which accompanies the “YOSHIDAGAWA scripture mound” (This is the original graph by authors.)

吉田川経塚に付随する事項	5 区の想起者数(人)	割合
シダレザクラ	3	60%
秋の月待お堂巡り	2	40%
どんど焼き	4	80%

Table 5. Comparison of remembrance of adults and children. (This is the original graph by authors.)

順位	大人の投票対象	得票数(票)	子供の撮影者数	割合
1 位	展望台	25	13	57%
2 位	岩村ダム	15	8	35%
3 位	茅葺民家	13	7	30%
4 位	大円寺跡	12	4	17%
5 位	吉田川経塚	11	8	35%
6 位	的場	9	0	0%
7 位	三宅家の土蔵	7	0	0%
8 位	上田家の土蔵	6	0	0%
9 位	銭神様	5	1	4%
10 位	不動滝	4	4	17%
10 位	石仏群	4	0	0%

Table 6. Comparison of remembrance of adults and children. (This is the original graph by authors.)

順位	子供の撮影対象	撮影者数(人)	大人の得票数(順位)
1 位	富田会館	15	1 (14)
2 位	富田川	13	0(-)
3 位	展望台	13	25(1)
4 位	東光院	10	0(-)
5 位	八幡神社	9	1(1)
6 位	吉田川経塚	8	11(5)
7 位	岩村ダム	8	15(2)
8 位	茅葺民家	7	13(3)
9 位	三森神社	5	2(13)
10 位	阿弥陀堂	5	0(-)
10 位	8 区公会堂	5	0(-)
10 位	乗馬クラブ	5	0(-)

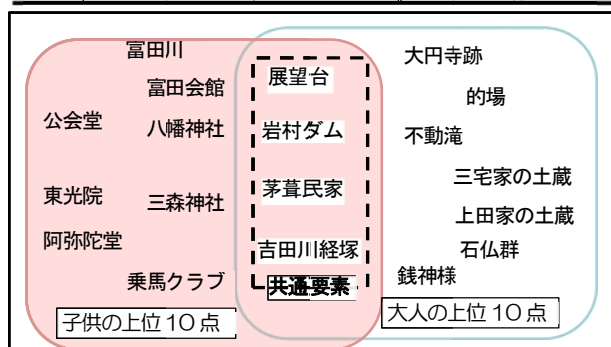


Figure 1. Common resources and deviation resources of adults and children. (This is the original graph by authors.)

Table 7. The reason for photography of an “Iwamura Dam” and “KAYABUKIMINKA” (This is the original graph by authors.)

「岩村ダム」と「茅葺民家」の撮影理由(一部抜粋)
<p>《岩村ダム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムから見た景色。 ・小さいダムだけどきれい。 ・岩村ダムから見た景色。 ・えん堤から上流を見た景色がきれい。
<p>《茅葺民家》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまた泊まりに来ている人がいる。・遠いところから来る人もいる。 ・ここは、茅の宿。数年前、伊藤さんという主人が住んでいが、今は宿になっている。 ・ここは、草の屋根の中で泊まることできる。 ・茅葺屋根、昔の家の1つ。

6. 補注・参考文献

※1 当作業において筆者らは、早稲田大学、岐阜大学、京都大学、日本大学により構成される、専門化支援組織として参画した。取り組みについては、参考文献1で報告。

[1] 恵那市：「合併後の地域連携を活かした持続可能な景観づくり計画と実行プロジェクト報告書」, 国土交通省 都市・地域整備局, 2010. 3

7. 謝辞

本研究の成果の一部は、「平成 23 年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(B)代表者; 佐々木葉)」によるものである。また、本調査を行うにあたり、多大なご協力をいただいた、富田地域子供の児童および保護者の方々、ならびに仲立てして頂いた富田地域住民の吉村攻平氏には、ここに記して感謝の意を表します。